

第6回 多摩市自治推進委員会 要点記録

日 時：令和7年10月31日（金） 19：00～21：00

場 所：永山公民館 視聴覚室

出席委員：白鳥光洋委員長、長野基副委員長、中島ゆき委員、牛腸哲史委員、山田寛子委員、和田あづみ委員（オンライン参加）

オブザーバー：一般社団法人コミュニティネットワーク協会 渥美京子理事長、中央大学国際経営学部 中村大輔教授、合同会社 MichiLab 高野義裕代表

事務局：田島協創推進室長、西村担当主査、村上、大越、永田

傍聴者：1名

議事次第：配付資料「第6回 多摩市自治推進委員会 議事次第」のとおり

1 開会

委員長 第6回第九期多摩市自治推進委員会を開催する。

まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。

事務局より、配付資料の確認を行った

委員長 次に、第5回委員会の要点録の原案について、修正はないか。

修正はないようなので、これで確定とする。

1 協創の実現に向けた取組み・検討状況報告

委員長 まずは、次第1「令和6年度市民参画の実績」です。事務局から報告をお願いします。

事務局より、資料17に基づき報告

2 協創の実現に向けた取組み・検討状況報告

委員長 続きまして、次第2「協創の実現に向けた取組み・検討状況報告」です。現在の取組み状況について、事務局から報告をお願いします。

事務局より、資料18に基づき報告

事務局からの報告は終わりました。続けて事業に関わっているオブザーバーからそれぞれのエリアでの活動の報告や今後の進め方についてご発言をお願いします。

オブザーバー 10月に実施した第一回エリアミーティングでは、ゼミ生約10名を含む、全30名程度の方が参加した。前半ではS I Mたまというまちづくりゲームを実施した。エリアミーティングは、ゆるやかに地域に関わっていただく雰囲気づくりの場としており、会の後半には、既に動いているミニプロジェクトの紹介を行い、第二回にもつなげていくワークショップを行った。また、次回のエリアミーティングまでの間はS N Sで情報配信をしていく。第二回では、V R Tカードを使ったワークなどをを行う。2月のミーティングでは、既存の活動団体との何らかのつなきとなるよう計画している。

オブザーバー 月1回、「誰でもカフェあたご」を認知症カフェの枠組みで就労B型の利用者さんやオレ

ンジパートナー、地域の方とともに企画、実施している。8月は和田さんとともに、発達が気になる子を持つ親のためのリビングラボの企画を実施した。12月に第2弾を実施する予定。就労B型についてはボッチャやピアノ、ネイル等やりたいことを活かして働くことをコンセプトとしている。デイサービスの利用者さんは要支援の段階から関われるようしていることで、多様なつながりを生む拠点を目指している。

オブザーバー 諏訪中学区では、エリアミーティングの参加者が、諏訪・永山れきし散歩というまちあるきイベントを企画している。ツナたま補助金にエントリーして採択されたので、第2弾を実施する。エリアミーティングについては、UR賃貸の入居が始まってからのタイミング（1月）に実施予定である。昨年度のエリアミーティングから始まった取組みや子ども食堂、諏訪小学校の取組みの支援をしている。青陵中学区の8月のエリアミーティングでは、ゲーム性を持たせたアイデア出しを行い、年明け以降で企画を進めていく予定。7月18日には、多摩八角堂でNPO紹、一般社団法人ハピプラとミチラボの3者で夜の居場所づくりを実施し、200名を超える方が集まった。子ども同士でもコミュニケーションが生まれていた。1月30日にも実施予定。新たな地域のプレーヤーを巻き込んでやっていきたい。団地管理組合のイベント協力もしている。夕涼み会等に準備段階から関わった。主に現役世代がイベントを運営している2団地に関わっている。以前は複数の管理組合で、商店街でお祭りをやっていたが20年以上前に無くなり、商店街で行っていたあじさいまつりについてもコロナ禍で無くなってしまった。現在はランタンフェスしかない状況。団地と交流しながら人材発掘や気づきを得るために関わりを継続している。

委員長 これまでの取組状況や今後について、ご意見・ご質問等があればお願ひします。

委員 ランタンフェスは最終日に行つたが、ものすごい人で驚いた。出演者の方も来場者も楽しそうなのが印象的だった。普段とはまちの雰囲気が異なり、みんなもそのような場所を求めていることがよくわかる。ツナたま補助金の採択事業であった10月26日のオープンマイクのイベントにも行った。こちらもお店に入れないくらい人が多かった。中学生が発表するタイミングで友達なのか人がたくさん集まっていた。主催者ともお話しした。今後は近くの公園も使いながらランタンフェスに近いようなワークショップやイベントをやっていきたいとのこと。多摩で機会がなく町田に出店している人も多いとのことだった。多摩でもそのような場や機会を増やしていくと良い。諏訪・永山れきし散歩に関わっている日本女子大のまちなかリンクアーズは、タマリズムでの採択が活動のきっかけだったかと思うが、その経緯等わかられば知りたい。

オブザーバー 会った時点では既に経済観光課と一緒に取り組みを実施しており、そこに至る経緯までは把握できていない。タマリズムは、多摩マイクロツーリズムプロジェクトという、京王観光と多摩大学が南多摩5市で一緒にやっている、学生たちがアイデア提案して実践、活動資金もつく取組み。そのつながりから経済観光課が声をかけたのではないか。

委員 そのような関わりから広がりが生まれるつながりも大事だと感じた。

3 諒問事項に関する意見交換

委員長 続きまして、次第3「諒問事項に関する意見交換」です。事務局から、これまでの委員会における議論を踏まえた中間答申の構成や、いくつかの論点整理等情報提供をお願いしま

す。

事務局より、資料19に基づき情報提供

事務局からの報告は終わりました。中間答申の内容や今後のスケジュール、第9期後半で議論する内容等について、ご意見・ご質問等があればお願ひします。

委 員 ゴールをもう一度見据えてどこまでのことと決めていくのかイメージしたい。条例化は必須としないということか？

委 員 長 前回の議論では、条例はあった方が良いが、機運が整わない段階でつくるのもどうかという意見が大半だった。

委 員 条例を作らないとなると、最終のアウトプットは何になるのか確認したい。今後、最終的な指定団体のあり方を考えていくことになると思う。広島市のLMOの事例を紹介していくが、それは行政が助成金をしっかり出して行っていくという制度であり、多摩市がそのような支援制度を作ろうとしているのかどうかを知りたい。それによって議論の方向性がかなり変わってくるのではないか。

委 員 長 広島市の事例は、現在はこれくらいしかないということで情報提供があった認識である。条例策定についてはどうか？

事 務 局 地方自治法260条49の1項が重要だと考えている。地域の多様な主体が連携、協力できるような体制をつくることをやらなくてはいけない。これが市町村に課せられた義務であり、これをどのようにやっていくかを自治推進委員会に諮問している。既存の団体の連携に加え、新たな担い手を発掘・育成していかなければいけない。エリアミーティングで発掘し、協議会型の組織で既存の団体を含めて地域内で連携して一緒になって地域の活動を始められる、2層のプラットフォームをつくるということを提案いただくということが重要かと思っている。プラットフォームをつくったうえで、条例化や指定地域共同活動団体の導入を後半に議論していただけると良い。

委 員 長 各委員でイメージしているものが少しずつ違うかもしれないため、イメージの共有を行いたい。

委 員 連携・協力の体制をつくるのが最終的なゴールで重要なことは既に共通認識としてあると思うが、プラットフォームの協力体制をつくればできるというわけではない。資料にあるように、既に関心層を活動層へということで活動を進めている。活動の回数や労力が増えていくだけにならないようにしたい。疲弊していく団体も多い。この場での議論でなくても良いが、持続可能性の高い行政による支援の枠組みもどこかで議論をしてもらうということを入れ込んでもらいたい。

委 員 長 その方向性で良いと思う。今のオブザーバーの方々は実際にやっていて地域プラットフォームのイメージができるか？

オブザーバー エリアミーティングで様々なことを試みており、一定数の関心層から活動層になっていっている方々は自分が興味を持つキーワードで集まっている。一方で、自治会の方々や既存の活動団体の方々と比べると温度差が大きい印象があり、地域の切実な課題解決という点では、水害や避難誘導等の話も出てくるが、急にはそこまでつながらない。今自分の興味でそれぞれ行っている活動の人手では見えている範囲も必ずしも広くなくそのような課題解決までできない。平準化したり補完したりする等、間に何か入る必要がある。次回の

エリアミーティングで、それぞれの活動の課題感や活動同士のつながりを増やしてもらえるようなしきけができればと考えている。そのような場がプラットフォームのイメージなのかなという感覚で捉えている。

委員長 エリアミーティングで何かやりたい人が集まって、活動をするまでに仲間ができる段階があると思うが、いきなり団体にはならない。上手くいけば協議会が立ち上がるのかもしれないが、すべてのエリアでそうなるかもわからない。条件があったエリアでそれを後押しできる条例や支援メニューがあれば良いのではないか。すべてのエリアでやっていこうとすると失敗するのではないか。

オブザーバー 試行的にやってみて他にも適応していくのが自然なやり方ではないか。

委員長 準指定団体が重要だと考えていて、地域によって様々なパターンの歩み方とそれに応じた様々な支援があって良いのではないか。全市的にエリアミーティングや協議会をつくるというのは、考え方は良いと思うが、チャレンジングだと思う。

副委員長 多活動マッチングのマッチングという言葉は多義的で何と何をマッチングしているのかがわかりにくいいのではないか。掘り起こしという言葉はわかりやすいが、多活動マッチングというのはすでににあるもの同士が結びつくということか。①掘り起こす段階、②マッチングする段階、③協議する段階と3層あるのではないか。人によって理解が食い違う可能性がある。無作為抽出での呼びかけは市役所でしかできない。無作為抽出を繰り返すことは掘り起こしにつながると思うので重要だと思うが、マッチングは別の表現や考え方で検討しても良いのでは。気候市民会議の参加者が無作為抽出で呼びかけられており、そこで環境へのアクションを起こすという動きもある。全市テーマと地域ごとの掘り起こしをどう整理するのか。

委員 関心層がどのようなきっかけで誰とつながるかはわからないので、様々なレイヤー、パターンで、無作為抽出で何かと新たにつながるというのは素晴らしいと思う。

副委員長 全市的な無作為抽出での掘り起こしの取組みとエリアごとの動きは同時に進んでいるという認識で良いか。

委員 エリアにこだわりはないが、テーマで興味を持つ人もいると思う。区分けできない心の動きがあるのではないか。

副委員長 資料19のP7と9の表も地域のみに見えるため、全市テーマから始まるパターンも含めて考え直す必要があるのでは。

オブザーバー マッチングという言葉の定義が多義的である。無作為抽出で届いたものが興味のある内容だったとしたら、それもひとつのマッチングのあり方と捉えられる。また、その人の興味に合うものを提供することもマッチングと捉えられる。様々な情報があるなかで、当事者意識が高まっていくことは、マッチングとも掘り起こしとも考えられるのではないか。私自身は、多活動マッチングという言葉はしっくりくる。疲弊という点については、当事者意識を持って取り組めたら、地域課題に向き合うこともその人にとってはやりがいになる。エリアミーティング等にやっと出てきてもらった人に、いかに地域に目を向けてもらうかがマッチングでもあるのではないか。当事者意識を持った人が揃えば、組織も成り立つのではないかと思う。地域活動を既にしている人とのギャップはかなりあるが、コツコツやっていくしかないというのがやっていての感想である。

副委員長 オブザーバー	全市的な動きと、地域ごとにやっていくという活動の関わりや差異が重要ではないか。 ミチラボでも、多摩市出身で、活動の動機が自然環境というメンバーもいる。エリアを限定せずに活動は始めるが、具体的な地域の関わりでエリアに目を向けるもある。それぞれの関心事によって範囲が変わってくるのはそれで良いのではないか。
委 員	全市のテーマから興味を持って入った人は、エリアごとの取組みに移行していくこともあると思う。それでも、目指す先はエリアのアクションや課題解決だという風に、認識は統一した方が良いかもしない。
副委員長 委 員	ツナたま補助金は全市的なつながりをつくりましょうという動きもある。 全市の場合はテーマごとの取組みに興味を持ってもらうことになるのでは。地域で何かのテーマについて深めていくときは全市的な動きと重なる部分も出てくるかもしれない。様々な興味・関心に基づくアプローチがあるということを踏まえて、地域の中で様々な活動がつながって、協議会型になっていくというイメージで、答申をまとめていく必要がある。
副委員長 委 員	そのような動きもある中で、結果的に地域に焦点を当てているということがわかると良い。最終的に目指すところとしては、市域よりも小さいエリア内で協力し合って何かやっていけるような社会をつくるということかと思う。近所の人同士の顔が見えるような活動をつくるということをベースに考えていくと良い。
委 員 長	全市の動きが否定されるわけではなく、気候の会議に参加した人が全市的な組織をつくり、地域の動きと連携することもあるかもしれない。複数のスケールが混在したうえで、どちらもやるということで良い。
副委員長 委 員	その前提で議論したことがわかるようになると良い。 委員長が言っていた準団体の必要性を私も感じている。資料19のP8にある「関心ある参加者を活動層に、活動層を新たな担い手にしていくための支援方策」を具体化していくためには、分科会等別の団体が何をどのようにすると良いのかを洗い出す必要があるのではないか。支援団体が何を支援すべきか曖昧なままになりかねない。準の組織として、現状の壁を地域ごとにヒアリングして調査する組織をつくる必要がある。そこを入れたいと思うがどうか。
委 員	準というのにも2つある気がしている。協議会型プラットフォームが指定地域共同活動団体になることを想定した場合、活動範囲分野のレベル感を区切ってそこ基準に満たないものを準とするのか、活動範囲分野のレベル基準は満たしているが成熟度という意味で満たないものを準とするのか。両方満たしていなくても準とするのか。
委 員 事務局	団体は市が委託する団体なのか、自発的な団体なのか? 委託ではなく自発的な団体が基本と考えている。ただ、指定するかどうかは市の判断となる。
副委員長 委 員	申請して、市が認めるかどうか。地域によっては申請しないという可能性もある。 何を支援するのか、申請するメリットが何なのかが明確でないと、制度が無駄になってしまふ。抱えている課題を洗い出す機能が組織として必要だと思う。
委 員 長 委 員	エリアの中で複数の団体が申請することもあるのか、それも地域に委ねるのか。 例えば青陵中学校エリアの場合、豊ヶ丘小学校のエリアで準、貝取小学校のエリアでも準

- 委 員 という団体も出てくるかもしれない。
- 委 員 長 準の種類も様々。
- 多活動マッチング型から協議会型に行くまでにいろいろあるのかと思う。そこをどう支援するのかも課題として盛り込まないといけない。議論のスケジュールもこれでいいのかどうか。
- 事 務 局 あくまで任期は2年間なので、到達したところで一回答申をいただくのでもかまわない。準ずる団体という考え方は条例をつくる手前で試行運用していくようなイメージで、その効果を検証しながら条例の検討をしていくレベル感の認識をしていた。
- 委 員 長 本日の議論をまとめられるか？
- 事 務 局 資料19P7の図が一つのロードマップになると想定していたが、ひとつのやり方ではないという議論がなされていた。多活動マッチングは継続的に掘り起こし続ける想定で、図でも青い矢印をひいている。その中で赤い矢印の組織化につながっていくと良いが、可能性としてその間もあり、違うパターンもあり、全市に広がらなくても良いとなると、この委員会として何を地域に求めてステージをあげていく結論を得たとするのかが、多様なパターンを許容することになり、悩ましい状況である。一方、全市的でも地域ででも、誰かが興味を持つ部分についてはそれで良いが、目指す先は、地域やエリアにわたしたアクションをすることや課題に取り組むという状況をつくっていく中で、掘り起こし続けることが大事ということは共有化できたと思う。その過程で何を支援するのか、持続的な組織なのかを何をもって判断するのか、話を聞いていても難しい。
- 委 員 長 いろいろなパターンの展開の支援をしていくことが多摩市らしさになっていくのではないか。
- 委 員 団体が支援するのか？多摩市が支援するのか？
- 委 員 長 どちらもあるのではないか。
- 事 務 局 行政だけでなく、中間支援団体もあると思う。
- 副委員長 高齢化の波に対しては生活支援サービスとしてローカルタクシーのニーズもあると思う。ローカルな民間組織が運営した場合、利用料で活動自体は回していく可能性がある。市は間の調整だけをするという可能性もある。新制度のメリットとしては、市長に対して調整の請求ができることがあるということがある。
- 委 員 協議会としてそれなりに事業を回せるような実績を積んでいけば、エリアにおける行政の各分野の業務を随意契約で受託することもあるかもしれない。ただ、その段階に行くためにはかなりのステップがあると思う。立ち上がる部分の人的な支援なのか、資金面での支援なのか、ステップアップするために何を提供すると自分たちで動いていきやすくなるのか。どう育てるのかという議論によっては行政も財政投入していく必要があるかもしれない。
- 委 員 長 元々コミュニティセンターも地域の運営を目指した施設かと思う。協議会が指定管理を受けてそこを基盤に事業ができる、収益を得て地域活動に資金を回すことができれば、そこに事務局機能もでき、自走していくことができるかもしれない。
- 委 員 総務省があえて指定管理制度ではなく指定地域共同活動団体制度をつくっているという意味では、箱の管理だけでなく、盛り上げる役割が別に必要だという意図があるかと思う。

- 委員長 委託というかたちがあつた方が動きやすいかもしない。わかりやすいモデルになる。
- 委員 今のコミュニティセンター運営協議会も法人格ではなく任意団体だが、指定管理を受けている。
- 事務局 協議会型のプラットフォームが指定管理者になることはあり得る。そうした経緯を踏まえ、整理していきたい。

4 その他

- 委員長 続いて、次第4の「その他」です。事務局より、何かあればお願ひします。
- 事務局 1年間の議論を中間答申というかたちでの何らかの形で方向性をまとめたものをつくりたい。11月10日までに素案をつくるので、11月17日までにご意見をいただきたい。次回の12月17日（水）は学習室で実施。時間は改めて調整し、都合がよければ19時を18時半に変更とする。次々回は、2月20日（金）19時から視聴覚室で実施予定。
- 委員長 質問等なければ、第6回の多摩市自治推進委員会をこれで閉会する。

□ 閉会